

歴史探訪

ロマン溢れる港町 寿都の歴史



カクジウ佐藤家

【国指定史跡「旧歌棄佐藤家漁場」】
【北海道指定有形文化財「漁場建築佐藤家」】

佐藤家は、1853年に松前藩の場所請負人として松前からこの地へ移住し、漁師を取りまとめる親方として財を成した。この建物は明治23年頃に建てられたもので、1階が和風の引き違い窓、2階が上へ開ける洋風窓と和洋折衷の外観が特徴的な建物。住宅と周辺の佐藤家が所有・建築した遺構【袋潤（現代でいう港）、干場（ニシンを干すための場所）、稲荷神社社殿】が現存しており、北海道西海岸のニシン漁の様子を知ることができる貴重な場所として、2016年3月1日付けで「旧歌棄（うたすつ）佐藤家漁場」として国史跡指定された。

佐藤家は屋号を「田（カクジウ）」としていたことから、現在も町民から屋号で呼ばれ親しまれている。

所在地：寿都郡寿都町宇歌棄町有戸163
見学方法：事前にご連絡ください。
お問合せ：寿都町教育委員会 (TEL 0136-62-2100)



橋本家（旧鎌御殿）

橋本家は元々地元の漁師を支える廻船問屋として商家を行っており、北前船で北海道と本州を行き来していた。御殿の整備には建材集めから建築まで14年の歳月がかかっている。

所在地：寿都郡寿都町宇歌棄町有戸14
見学方法：事前にご連絡ください。
お問合せ：寿都町教育委員会 (TEL 0136-62-2100)



寿都町文化財展示室

かつての寿都のにぎわいと歴史に触れることの出来る空間。寿都町を流れる朱太川（しゅぶとがわ）遺跡で発掘された土器、鯨漁最盛期に使われた漁具、当時の漁村集落を再現したジオラマなど、寿都の繁栄を物語る貴重な資料が残っている。

所在地：寿都郡寿都町開進町187（寿都町総合文化センター内）



壽都神社

明治時代に厳島神社と称して郷社に列せられ、大正時代に壽都神社と改称して現在に至る。御創祀390年を超える歴史と格式を持ち、この近隣では最も古い歴史を誇る寿都の重要な文化遺産。

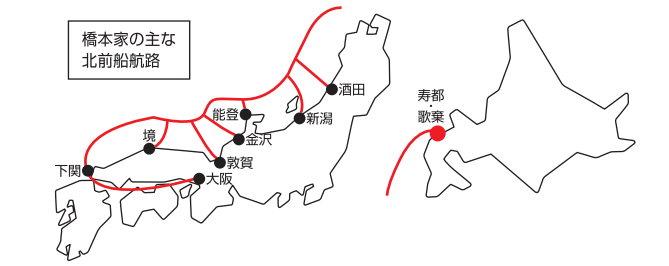
所在地：寿都郡寿都町宇歌棄町127-2 (TEL 0136-62-2231)

すつつ北前船ものがたり

歌棄町有戸は、かつて山側も海側も長屋が連なり、浜はにぎわい、全国から買い付けの商人が集まるほど栄えていた。そんな繁栄を支えていたのが「北前船」である。

歌棄の名家「橋本家」は当時「酒井丸」、「長栄丸」、「益栄丸」と三隻の北前船を所有しており、その船に魚などを積んで敦賀・琵琶湖を経由して大阪・堺で売り、下関を経由して各地の米・酒・わら製品・糸など生活必需品を積んで寿都へ戻ってきた。各地の様々な産物・文化を寿都へ伝え北前船は、物流だけでなく文化交流の普及にも一役かかっていた。

歴史



寿都に残る北前船の遺産 壽都神社の船絵馬

寿都人の血が騒ぐ 寿都の祭り

例大祭

春・夏・秋
各種イベント



壽都神社例大祭
■開催日時
7月海の日前の
金曜日・土曜日・日曜日
■会場
壽都神社、寿都町市街地

壽都神社例大祭

ご参り
御創祀三九〇年を超える歴史ある壽都神社。伝統文化を継承する例大祭は壽都最大の行事。例大祭は海の日前の週末三日間にわたり執り行われ、神社や神楽殿では国指定重要無形民俗文化財の松前神楽が奉納される。

町中色とりどりの提灯が飾られ、太鼓や笛の音色が響き渡る中、猿田彦所役を先頭に旗持ち所役、子供奴（やっこ）、黄金色に輝く神輿、獅子舞ヤツサ、趣向を凝らした各町内会の花山（山車）が約1kmの行列となり、二日間かけて市街地約二〇kmを練り歩く。

町民が振舞い酒や料理などで接待し、感謝と祈りが捧げられ、各行列は踊りや舞を披露。小さな子どもから大人まで、壽都の人たちが一番熱く盛り上がるこの例大祭は、壽都人のお祭り好きの原点である。



厳島神社・美谷稲荷神社例大祭
■開催日時：8月第1土曜日・日曜日（予定）
■会場 厳島神社、美谷稲荷神社、歌棄町

その他の各地区では、海神社、島古丹稲荷神社、伊都岐島神社、鼓取潤稲荷神社、湯出神社、樽岸稲荷神社の例大祭が執り行われている。

春のイベント

5月下旬予定

海フェス&軽トラ市
(寿カキをメインに海フードが楽しめる。)

夏のイベント

8月中旬予定

寿都漁港納涼花火大会
すつつ夏祭り

秋のイベント

10月初旬予定

すつつ鮭・ホッケ
フェスティバル
& 軽トラ市